



「1号車、レディー、ゴー！」



「1号車準備 OK」の合図を送る。



信号を見て止まる1号車。
信号機役は、懐中電灯を光らせる。



左は、水色1号車。
右は、緑色2号車。



「係になりたい人、手挙げて！」
「はい、私になりたい！」

CASE 22
5歳児

ゴーカート1号車、レディー、ゴー！

協力園
日出町立
大神幼稚園

（幼児の実態）
10月のサファリ見学後に、サファリごっこを楽しんだ子どもたち。「今度は、自分たちも遊べるランドを作りたい。」と願いをもち、12月には「大神ランド」ゴーカートは、本物に似せて車体を低くした水色の1号車、ボンネットに膨らみを工夫した緑色の2号車の二台。メリーゴーランドには、二頭の馬。どちらも底には車輪が付いていて子どもたちが動かしやす。みんなで遊べる「大神ランド」が開園となりました。

朝の集まりでは、「いよいよ『大神ランド』で遊べる日になりましたね。」「係の人とお客さんがいるよ。」「じゃあ、それどうする？」と、担任と子どもたちのやりとりが続いています。R児が、立ち上がり「お客さんになりたい人、手挙げて。」と呼びかけると、殆どの子が挙手します。みんなお客さんになって遊びたいのです。「ちよっと多すぎるな。」「13人だから、6人と7人かな？」「じゃ、分かれる？」と、子どもたちは考えをつないで係とお客さんに分かれます。係についても「ゴーカートやりたい人？」「メリーゴーランドやりたい人？」と、子どもたちで話し合いをしながら分担当が決まります。ゴーカートでは、懐中電灯を点灯させる信号機係に人が集まり、その係をジャンケンで決めていきます。担任は、この様子を頷きながら見守っています。

ホールでは、メリーゴーランドがステージに置かれ、ゴーカート場はフロアに広く設定されています。テープを貼った立派なコースができています。ゴーカート場の3人は、信号機役、「レディー、ゴー」の出発役、ゴーカートを押す運転役を分擔します。

Y児は運転役になり、お客さんを乗せ、出発係が「レディー、ゴー」の合図を出すと、体全体を使い力いっぱいゴーカートを動かします。真つすぐな所は、少しだけスピードをあげています。「わあー、速っ！」とお客さんは大喜び。お客さんが喜んでくれると、Y児も笑顔になります。「とまれ」の標識があると、Y児もお客さんも一緒に「ストップ」と声に出し、Y児は、停止線で止まるように考えながら運転しているようです。カーブに來ると、お客さんはブレーキを踏んだり、ハンドルをきったりしてゴーカート気分を楽しんでいます。交差点では、信号機係が懐中電灯で赤、黄、青と点灯させています。運転するY児とお客さんの二人で信号待ちをしながら「赤は行けません。」「もう少し待って。」「青、出発。」「などと言いつつ、待つ時間も楽しんでいきます。コースを一周してゴールに戻るY児が、慎重にバックしながら駐車場に入ると、見ているお客さんは「すごい！」と拍手をします。Y児も嬉しそうに笑顔になります。降りる時、「ありがとうございました。」が返され、お客さんも運転係もゴーカート場が楽しそうです。

Y児が、お客さんを何回か乗せると、みんな2号車に並んで、Y児の前の1号車には誰もいなくなりました。これを見ていた担任は、「お客さんいないから『レディー、ゴー』をやってみたら。」とY児に声をかけます。

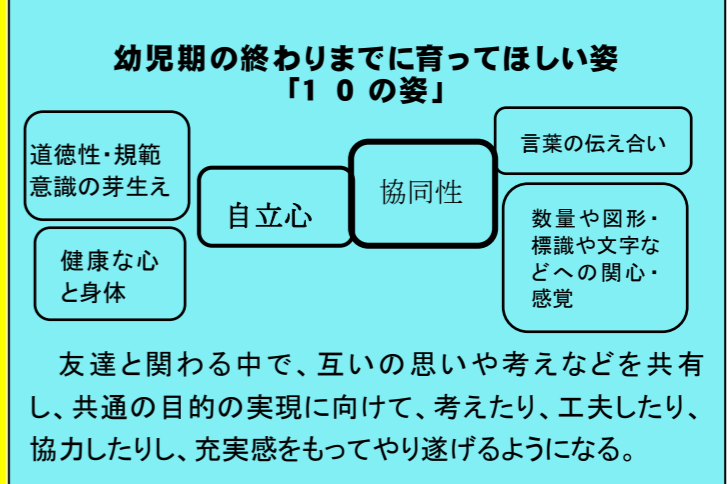
「レディー、ゴー」は、「本物らしく、恰好よく」と、みんなで考えたゴーカート出発の合図です。友達の前で言うことが「難しいなあ。」と話していたY児ですが、前日、何度も繰り返し練習して「レディー、ゴー」が言えそう。と前向きな気持ちを少しだけ見せていました。それで、担任は「チャレンジしてほしい。」と思ったようです。

また、出発係の子には、Y児の思いに目を向けさせようと「係の分擔はどう？」と問いかけました。出発係の子は、しばらくの間考えて、Y児がずっと運転役をしていたことに気付いたのか、「うん。」と言ってY児の傍に行き、合図に使う白のフラッグを渡しました。

Y児は、「レディー、ゴー」を言いたいものの、初めての出発係に少し不安な様子でしたが、自分からスタートの位置まで移動しています。見ていたM児は、「Yくん、『レディー、ゴー』って言ったらいいで。」と、笑いながら声をかけます。M児は、Y児に一番最初に1号車に乗せてもらい、速く走ってもらったこと、Y児に楽しんでいたこと、Y児が何度もゴーカートを走らせたことや、出発係もしたいY児の思いを汲み取り、応援しようとしたのだと思われま。1号車の係となつたS児も「一緒に言おう。」というように「Yくん、準備OK。」と手で合図をします。二人の声に励まされ、Y児は白いフラッグを振って「レディー、ゴー！」とスタートさせます。1号車は、Y児の合図のとおり元気よくコースに出ていきました。フラッグを降ろしたY児の嬉しそうな表情には「できた！」という満足感が感じられました。

その後、M児が待っている2号車にすぐに駆け寄って押し始めたY児。「レディー、ゴー！」ができた自信からか、さらに力を入れ、弾むようにゴーカートを押していました。

大神ランドに迷路も作って遊びたいと願う子どもたち。一人一人に「やりたいこと」が生まれ、協力して楽しむ『大神ランド』の遊びが続きそうです。



事例から見られる10の育ち 協同性
大神ランドで遊ぶためにグループ分けをどうするか、話し合いの中で手したり、具体的に数を提案したりして一緒に解決しようとしている。ゴーカート場では、係とお客さんとで交通ルールに沿った走行を共に楽しんでいる。運転役は、お客さんを楽しませるために速度を変えたり、カーブや駐車場の安全を考えたりして役割を果たそうとしている。お客さんが喜んでくれることが充実感につながっていると思われる。
出発係をやりたいたい友達に、出発の言葉や教えたり、合図を送ったりして、みんなが大神ランドを楽しめることを実現させようとしている。

事例から見られる10の育ち 自立心
自信がなかった出発係ではあったが、ドキドキしながらも、信頼関係を基盤にした保育者や仲良しの友達の励ましの声に、Y児は「レディー、ゴー！」の合図を送ることに挑戦する。そして、無事ゴーカートをスタートさせることができたY児は、この体験を通して、達成感や満足感を味わう。満足感・達成感「自分もできた」と自信を生み、また、友達を楽しませてあげようと次の遊びへの意欲に繋がっている。

協同性・自立心 環境構成のポイント

- ダイナミックに遊べる広くて変化のあるゴーカートコースの環境設定。
- 自分たちで話し合い、役割分擔をしながら遊びを進める姿を認め、見守る保育者の存在。
- 係の仕事や遊びに不十分さを感じている子への保育者の寄り添いや励まし。
- 自分の思いや考えを伝えたり、考えを受け入れてくれたりして遊びを楽しめる友達の存在。
- 挑戦しようとしている子への友達や保育者の認めや励まし。